

令和6年度 会派議員派遣報告書

会 派 名	市民ネットワーク
議 員 名	分野 達見、中重 信夫、岡田 直己
議員派遣先名	京都府京都市南区東九条西山王町1（京都JAビル（廣瀬行政研究所））

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
研修・研究費	114,900 円	旅費
研修・研究費	150,000 円	研修会受講費（@25,000 円×3 人×2 日分）
研修・研究費	880 円	振込手数料
合 計		265,780 円

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

本市の観光振興においては、交通の利便性や様々な観光資源があるにも関わらず、近隣市町と比較して、観光客を誘致できていない。また近年、全国各地で自然災害が多発している中、本市においても、防災・現在対策を講じているが、予想を超える自然災害の猛威に更なる対策を講じていく必要があることから、観光振興と防災・減災対策について調査・研究するため、研修会を受講した。

2 実施概要（1 日目）

実 施 日 時	派 遣 先	京都府京都市南区東九条西山王町1 京都JAビル（廣瀬行政研究所）
令和7年2月4日 10:00～17:00	担 当 部 局	跡見学園女子大学 観光デザイン学科 准教授 篠原 靖 氏
	【報告内容】 日 時：2月4日（火）10:00～17:00 場 所：京都JAビル101号室 講 師：篠原 靖 氏（跡見学園女子大学 准教授） 出席者：分野達見、中重伸夫、岡田直己 【講座スケジュール】 10:00 開始	

10 : 15 自己紹介

11 : 10 第一部 導入講義

稼ぐ観光政策（少子高齢化時代の市町村の未来戦略を考える）

13 : 15 第二部 事前アンケートの地域課題を掘り下げ

15 : 30 講義・解説（成功事例紹介と観光庁予算の支援事業獲得方法）

16 : 40 質疑・研修のまとめ

17 : 00 終了

◆研修のポイント◆

- ・ 日本経済と観光の位置付け
- ・ 激変する観光マーケットの最新動向の把握と共有
- ・ アフターコロナの地方経済と観光振興の重要性について
- ・ 稼ぐ観光への脱却 観光で地域経済の活性化につなげていく方法について
- ・ 地域経済を新たな発想で見直し関係人口を創出する方法について
- ・ インバウンド誘致と観光 DMO の構築について
- ・ 着地型観光について
- ・ 観光人材の育成のポイントについて

（１）第一部 導入講義

稼ぐ観光 ～少子化高齢化時代の市町村の未来戦略を考える～

１）稼ぐ観光の位置付け

- ・ マーケティングとマネジメントが必要

２）地方における課題

- ・ 外国人旅行消費額などの目標達成率は約 6 割
- ・ オーバーツーリズム問題への対策が必要
- ・ 行政の役割と民間の役割の再整理が必要
- ・ 地域活性化事業について始めは楽しいが、3 年経つと疲弊してくる

３）具体的に何をすべきか

- ・ 主要観光地がある場合は、近隣の街は対策を講じなければならない
- ・ 食事（ランチ）に体験メニューを揃えるなど滞在時間を伸ばす仕組みを考える
- ・ 近年はそこでしか感じられない、今だけ、私だけなど。消費者は本物を求めている
- ・ 顧客価値はどこにあるのかを分析する必要がある
- ・ 地元の生活文化を整理して、観光業界以外にも市町村地域が一丸となったまちづくりの取り組みが必要

４）DMO

- ・ 人材を育てる必要がある
- ・ 仏作って魂入らずになっている（組織体制は良いが、中身がない）
- ・ 民間の巻き込み方が不十分だったりしている

(3) 事前アンケートの地域課題を掘り下げ

◎三原市→発展の可能性あり

⇒滞在して楽しめる顧客価値があるかがポイント

- ・歴史の紐を解いて、観光資源などを整理していくこと
- ・景観と食べ物と食べ方と食べる場所を考えることが重要
- ・課題を掘り上げて、専門家に相談してみる
- ・ゴルフ場はそこで終わらないように考えること
- ・尾道市に人の流動があるから可能性は大きい

(4) 講義・解説

- ・インバウンド、アウトバウンドとも生活文化観光がポイント（身近なこと（文化）を観光にしていける）だから今こそ地域観光の出番
- ・売りをしっかり伝える

(5) 成功事例の紹介と観光庁予算の支援事業獲得の方法

1) 成功事例

事例1：青森県（旧金木町）

◎津軽鉄道ストーブ列車

赤字路線を観光資源として活用

◎地吹雪ツアー

地吹雪歩行体験、カンジキ体験など

事例2：秋田県

◎秋田犬 PR

忠犬ハチ公をモチーフに秋田犬の里などを PR

◎観光用の食事メニューの開発

行政と市民と事業者が話し合って開発した

2) 観光庁の支援事業の解説

- ・観光立国基本方針
- ・補正予算
- ・予算概要

3) 議会質問の視点

- ・そもそも何のために観光を推進しようと考えていくのか
- ・現状、核として売り出している資源の顧客価値は本当にあるのか
- ・2つのM（マネージング、マーケティング）
- ・県・自治体・民間の役割分担
- ・稼ぐ観光の仕組みの確立のためには

4) 地域観光を成功させるキーワード

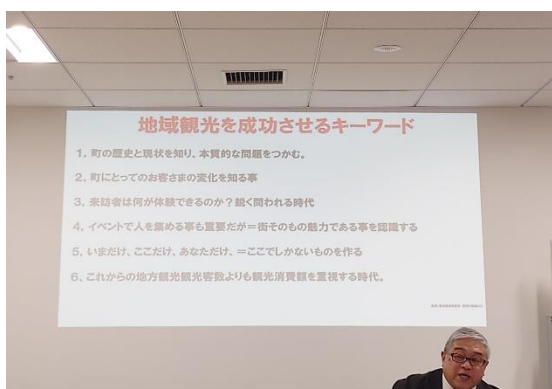
- ・町の歴史と現状を知り、本質的な問題をつかむ
- ・町にとってのお客さまの変化を知る事
- ・来訪者は何が体験できるのか？鋭く問われる時代
- ・イベントで人を集める事も重要だが＝街そのものの魅力である事を確認する
- ・いまだけ、ここだけ、あなただけ＝ここでしかないものを作る

	・ これからの地方観光客数よりも観光消費額を重視する時代
市政に活かせること（まとめ）	【所感】 講義の中で他市町と観光資源について意見交換をした結果、三原市には既に十分な観光資源があることを確認できました。 また、今後は、歴史の紐を解いて観光資源などを再整理し、滞在して楽しめる顧客価値があるかなどに加えて、そこでしか感じられないオンリーワンの企画をすることが観光振興へのポイントということを学びました。 そして、その為には、観光業界以外にも地域が一丸となったまちづくりの取り組みが必要ということを学びました。 本研修会の受講が、今後の本市の観光振興の発展に貢献できることを期待します。

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。



<受講中の様子①>



<受講中の様子②>

実施概要 （2日目）

実施日時	派遣先	京都府京都市南区東九条西山王町 1 京都 J A ビル（廣瀬行政研究所）
令和7年2月5日 10:00～17:00	担当部局	跡見学園女子大学 まちづくり学部 教授 鍵屋 一 氏
【報告内容】 日 時：2月5日（水）10:00～17:00 場 所：京都 JA ビル 206 号室 講 師：鍵屋 一 氏（跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部） 出席者：分野達見、中重伸夫、岡田直己 【講座スケジュール】		

報告内容・所感

10:00 開始
 10:05 自己紹介（講師）
 10:10 第一部 自治体の防災減災マネジメント（基礎編）
 12:50 質疑・研修まとめ
 13:00 終了/休憩
 14:00 開始/講師紹介
 14:05 第二部 実例からみる防災対策における議会・議員の役割（実践編）
 16:40 質疑・研修のまとめ
 17:00 終了

（１）第一部 自治体の防災減災マネジメント基礎編）

- 1) 命を守る防災のコツ
 - ・ 早く逃げる
- 2) 災害時に重要なこと
 - ・ 寒さ対策、明かり、トイレ、食事
- 3) なぜ行政の災害対応は大変なのか？簡単に言うと
 - ・ 業務量に対して職員が少ない（通常の 20 倍程度）
- 4) 重ねるハザードマップで災害危険度を調べる
 - ・ 職場だけでなく、自宅、通勤経路も確認すること
- 5) 南海トラフ巨大地震
 - ・ 最悪のケースでは死者は 32 万 3000 人、倒壊・焼失建物が 238 万 6000 棟と予想されている
- 6) なぜ人は備えないのか？逃げ遅れるのか？
 - ・ 正常化の偏見「自分は大丈夫」
 → 本当の敵は、わかっていながら備えられないことが問題
- 7) もし地震が発生したら
 - ・ 怪我人の救助と初期消火が重要
 - ・ 自分が怪我をした時の事を考える
- 8) 人と人の繋がりが希薄になっていることが最大の問題
- 9) 自助、共助、公助の次の戦略
 - ・ 福祉政策の中に福祉防災を入れることが重要
- 10) 災害時の避難・支援関連計画（案）
 - ・ BCP と個別支援計画などを作る
- 11) 避難所外避難所の支援計画・体制
 - ・ 計画されていない自治体が約 6 割
- 12) スフィアハンドブック
 - ・ 根幹にある二つの信念
 - ①被災者は援助を受ける権利がある
 - ②実行可能なあらゆる手段が尽くされるべき
 - ・ 基準が実行不可能な時は、対話が大事
- 13) 避難所に関する取組方針・ガイドラインの改訂

- ・ 食事の質の確保（キッチンなど）
- ・ 生活空間の確保（パーテーションなど）
- ・ 生活用水の確保（入浴機会や洗濯機会の確保など）

1 4) 災害時の議会・議員の使命

- ・ 住民の命と尊厳を守る！
- ・ 市町村当局と協同し、国等や国民に働きかける
- ・ 災害時でも、地方自治と民主主義を守る

1 5) 議会が正常化の偏見を破ろう

- ・ 防災以外の常任委員会で各部署の防災質疑を行ってみる

(2) 第二部 実例からみる防災対策における議会・議員の役割（実践編）

1) 阪神淡路大震災

- ・ サバイバースギルト⇒生き残った人の罪悪感

2) 災害への備え

- ・ 被害抑止対策
- ・ 災害対応準備対策

3) 被災者支援

- ・ きめ細やかな支援を講じる必要がある

4) 復旧・復興

- ・ 生活復興、社会復興、産業復興、基盤復興

5) 防災基本条例は何を目指すのか

- ・ 住民・自治体が災害から住民の命を守る覚悟を条例で明らかにする

6) 重要な地域防災政策とは

- ・ 住宅の耐震化
- ・ 要配慮者支援
- ・ 防災教育

7) 対策を考える

- ・ 自分と家族の身を守る
- ・ 安全を確保したら事前に決めた高齢者、障がい者等の安否確認
- ・ 自治会長等に報告する
- ・ 要配慮者も安否を知らせる

8) 個人情報

- ・ 災害時には避難支援等関係者に名簿情報を提供できる
- ・ 平時は市町村の独自判断を尊重する

9) ひなんさんぽ

- ・ 事例として岡崎市、男鹿市で実施している

1 0) 個別避難計画の本当の狙い

- ・ 平時も災害時も支え合える社会＝地域共生社会を作る手段

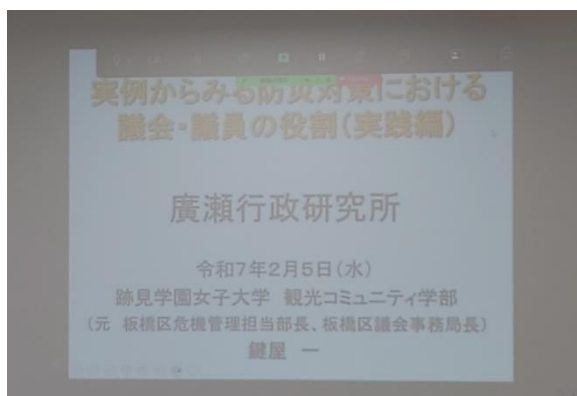
1 1) 都市防災の最重要対策

- ・ トイレ対策とマンション対策

1 2) 議会BCPの留意事項

	・ 職員の災害対応専念と議会の役割とのバランス ・ 議会災害対策組織の位置づけ ・ 議会機能の復旧 ・ 議会事務局職員の任務 1 3) 災害時の議会、議員の役割 ・ 地域での支援活動 ・ 情報収集と災対本部への提供 ・ 視察の受入れ ・ 要望活動 ・ 復興計画 1 4) これからの防災は ・ 損失を減らす防災から価値向上の防災へ with コロナの時代だからこそ 日常から人間関係、近所関係が良好で、安全安心の地域づくりが災害や危機にも強くなる
市政に活かせること（まとめ）	【所感】 講義の中で、最初に行った体操を通じて、「ゆっくりだとできることも急ぐとできなくなる」「日頃行っていないことを急にしようとしてもできない」ということを体感し、これを防災に置き換えると、落ち着いて避難することと、日頃からの防災訓練が重要であることを学びました。 更に、防災意識の中で、「自分は大丈夫」という正常化の偏見から、わかっていながら備えられないことが大きな問題であることを学びました。 そして、日常の人間関係、近所関係が良好で、安全安心の地域づくりが災害や危機にも強くなることを学びました。 本研修会の受講が、今後の本市の防災・減災対策の発展に貢献できることを期待します。

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。



<受講中の様子①>



<受講中の様子②>